

## 小泉製麻株式会社

<http://www.koizumiseima.co.jp>

環境事業部 小泉康史

[y.koizumi@koizumi-jm.jp](mailto:y.koizumi@koizumi-jm.jp)



小泉製麻株式会社  
 神戸市灘区新在家南町1丁目2番1号  
 1890年6月創業 1918年設立  
 資本金: 2億3,000万円  
 事業内容: 黄麻・合成樹脂事業など  
 連絡先: 本社 TEL 078-841-9344  
 東京 TEL 03-3567-9211

### 1. 伝統ある緑化技術を踏襲した簡単便利な資材を開発

小泉製麻は日本の伝統である「藁こも」「敷き藁」に代わる麻製造園資材として「緑化テープ」「緑化マット」を開発しました。造園分野で培った技術を法面植生に活かし、ジュートネットやヤシネット、また編み柵にかわる簡易法面植栽柵「エコプランター」「バンブーエコプランター」といった天然素材をテーマに緑化資材を提供しています。法面樹林化を中心に国土交通省、旧道路公団、各地方自治体での実績を頂いております。

### 2. 植栽工と播種工の融合を実践

日本の緑化工は、厚層基材吹付などに代表される機械施工による緑化工や、苗木植栽などに代表される人力施工による緑化工がそれぞれ単独に施工されるケースが多く見受けられます。各工法にはそれぞれにメリットデメリットがあります。そうした各工法のメリットデメリットを考慮に入れた上で多様性の高い日本の植生にあった緑化として、当社は「エコプランターを用いた自然配植緑化」を提案しています。

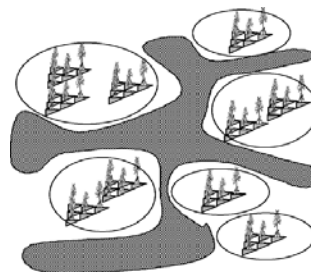
「自然配植緑化」とは造成法面に苗木を植栽する際、ランダムに植栽位置を決定し植栽位置に集中的に苗木を植栽し自然樹林を復元する工法です。

「自然配植緑化」は従来技術と共存しうる工法です。法面緑化工における吹付工、造園工における苗木植栽工の双方のメリットを活かし、地域から求められる植生復元をテーマに法面の樹林化を実践しています。

自然配植緑化は他工法との組み合わせにより生きる工法です。図面作成や植栽配置といった専門の知識が必要な工法ですが、外来生物法施行による外来種規制や生物多様性が求められる時代だからこそ、こだわりを持った植生復元が必要であると考えています。

### 3. 生分解、天然素材を用いた「カーボンニュートラル」をテーマに資材を開発し社会貢献を目指す。

「麻」という天然素材で環境に優しい文字を社名に残したのは当社が社会的責務として環境に貢献すべきであるという意思の表れです。「天然由来の資材を活用し、植生復元を実現する」、これからも「生物多様性の高い樹林化」をテーマに環境負荷ゼロの緑化資材を提供し続けます。



ランダムに植栽位置を決定。  
 植栽位置にエコプランターを設置。  
 集中的に苗木を植栽します。  
 エコプランター1基につき苗木を  
 3~6本植栽します(集植)。

- ひとつの樹林の島として集中して植栽する箇所
- 植栽していない箇所は吹付や飛来種子待受による緑化を目指す。

図-1 自然配植緑化のイメージ



写真-1 簡易法面植栽柵「エコプランター」



見えにくくなっていますが、エコプランターが設置されています。

遠景

近景

写真-2 エコプランターを用いた自然配植緑化施工事例  
高野山 施工後9年経過